

臨床放射線

編集委員

後 閑 武彦
橋 本 順
今 井 裕
栗 原 泰之
森 壘
山 下 孝

編集協力委員

畠 中 正光
小 川 恭弘
松 永 尚文
森 宣
村 田 喜代史

編集後記

▶ 今月号の特集テーマは「PET 検診」です。昨年秋の第 56 回日本核医学学会学術総会と第 36 回日本核医学技術学会総会学術大会のワークショップを紙上に再現しました。4 つの特集論文にて現在の PET 検診の立ち位置と今後の動向について触れることができます。同時に、総説 3 論文、研究 2 論文、症例報告 6 論文、情報関連 1 論文掲載されています。

▶ さて週末（4 月 13～16 日、横浜）に第 76 回日本医学放射線学会総会が角谷眞澄会長のもと開催されました。すばらしい企画と、天候にも恵まれ大変な盛会となりました。恒例の image interpretation session も各問に 4 人の回答者全員がコメントを寄せるというユニークな形式で組まれていました。そのなかで気になった一言がありました。それは「この 2 つの所見から Google 検索するとすぐに回答にヒットするという比較的容易な問題です」との発言です。すなわち現在では検索の難易度が症例の難易度なのです。

▶ 現在のフィルムリーディングは、①画像所見の抽出、②Google、PubMed などの検索エンジンによるネット検索、③ヒットした疾患の妥当性の検討という作業になっているのです。実際の日頃の読影でも、問題症例に遭遇するとしばしば Google 検索を利用しているので決して非日常的ではありません。我々は四半世紀前から Internet 時代に突入し、いつの間にか大量データを利用することに慣れているのです。近年 AI (artificial intelligence) が注目を浴び自動診断が危惧されていますが、その原型は実はどうの昔にできていたわけです。将来、自動診断はこの一連の作業、すなわち画像所見の抽出から検索、評価までが自動的により巧妙で正確、迅速に実施されるのでしょうか。

▶ そこで Internet の検索エンジンが出現する前まではどのように行っていたか思い返すと、所見から病態を解析し、すでに頭のなかに入っている疾患と照らし合わせ病気を想像していました。人の頭脳の容量には限界があるので病態解析でどこまで絞れるかが重要であり、これが難易度を示していたような気がします面白かった所ではないでしょうか。

栗原泰之

「臨床放射線」第 62 巻 第 5 号

2017 年 5 月 10 日発行（毎月 10 日発行）

定価（本体 2,500 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 39,900 円＋税）
[年間 13 冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代]
年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

JCOPY < (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。